

浜松観光ボランティアガイドの会

研修部主催「浜松城の歴史的意義の説明会」を聴いて

11 月 15 日 10 時から 12 時まで、浜松市文化財課鈴木一有(かずなお)氏による標題の説明会が浜松観光ボランティアガイドの会に対して浜松市市民協働センターにて開催され、会員 62 名が参加しました。2 時間の説明会で、これまでの浜松城跡発掘調査の経緯と、2018 年 1 月から 3 月までの 23 次発掘調査、及び 8 月から 11 月までの今回の 24 次発掘調査の結果、並びに浜松城の歴史的意義を伺いました。

話の内容は、引馬城から浜松城への変遷、そして変容がこの発掘によりベールが徐々に剥がされつつあるということでした。16 世紀から 17 世紀の武家社会の中で信長、秀吉、家康の三英傑が混沌とした戦国時代を勝者として日本国中を駆け回っていた頃の遠州地方の状況、まさに引馬城から浜松城へ、そしてその拡張と変容に現れているのを感じました。



鈴木さんの熱弁に聞き入る会員の皆さん

先ず、浜松城の 5 段階について説明があり、豊臣政権の段階から徳川政権への段階で天守曲輪を含めて大きな改造があったことが説明されました。江戸時代には天守曲輪、本丸は使われていなかったが、ここに天守があったことが分かるだけで良かった、象徴的な空間ということでした。

23 次発掘調査で天守曲輪は今の地面より 2m 下に堀尾時代の地面があったことが分かりました。また、南東部トレンチ(調査溝)だけに大量の瓦が見つかり、皆古いもので 1590~1600 年頃のものでした。このことから天守曲輪南東部に櫓があったことが想定されました。江戸時代に入って櫓は壊されて、瓦が埋められた。この時に曲輪も埋められたのではないかと想定されました。



櫓台北西隅(配布資料から)

24 次発掘では南東隅で更に大量の瓦溜まりと櫓の基礎と捉えられる石列が確認できました。瓦の製作技法や紋様の特徴がすべて堀尾吉晴の城主時代であったころのもので、絵図面にはない櫓が、存在していたことが初めて確認されました。

1590 年代には家康の城から秀吉の城へと大きな変革がありました。それは石垣と巨大な天守です。民は時代が太閤さんの時代へと変わったことを実感したのではないかと考えられます。

関ヶ原の戦い以後には、また時代の変換がありました。宿場町をお城の南側に移し、豊臣時代の建物を否定する考えになりました。

23 次発掘と今回の発掘の結果から、堀尾吉晴時代の天守は現存するものの 1.5 倍以上の大きさであり、単独のものではなく、複雑に絡み合った建物ではなかったかと考えられます。

豊臣時代の城は忘れられた姿である可能性があり、浜松城の発掘でその思いが深くなってきたとのことでした。今後の発掘調査を待ちたいと思います。

これまでの元城小学校跡地での発掘調査で二の丸と本丸の間に秀忠の出生に関する「お誕生場」の井戸が新しく確認されています。

更に、徳川幕府以降の浜松城の二の丸、三の丸の全容が徐々に明らかになると期待します。

織田昌明(中ブロック)、広報部 佐原正敏(中ブロック)

「20 期生 リフレッシュ研修」

11 月 27 日 9 時 30 分～13 時まで、20 期生 8 名を対象とする「リフレッシュ研修」が実施されました。今年は、昨年までの会議場を利用した「新人フォローアップ研修」とは趣を変え、中沢・高林地区の社寺を巡る実地研修となり、題目も標題のように改められました。

参加者は新人 8 名と事務局等 7 名の総勢 15 名で、冒頭、会長から「浜松城の近くに、有名でなくても良い所がある」「このような所で詳細を勉強することも、名所ガイドの肉付けとなる」と研修の趣旨が述べられ、「後でテストするからね」と釘を刺されました。

行程はホテルコンコルド浜松を出発し北上する 152 号線沿いの 4.5km でした。



出発：ホテルコンコルド浜松の交差点

1. 常楽寺：天平 8 年(734 年)開基、度々の戦火により建物は焼失。三方ヶ原の合戦で敗れた徳川家康が敗走途中に家臣が本寺の釈迦如来像を持ち出し、川の架け橋とした伝説となりました。
2. 遠州信貴山：昭和 58 年(1983 年)開山。奈良県の信貴山から毘沙門天を勧請し毘沙門堂に祀られました。



遠州信貴山本堂、獅子像、マニコロ



大師堂にて四国八十八箇所巡り

弘法大師を祀る大師堂には多くの空海像が置かれ、四国八十八箇所巡りができる「お砂踏み」が床に敷かれています。

皆さん「これなら膝を傷めず、巡れる」と言いながらそれぞれ願い事を祈願していました。

本堂の前には「マニコロ（十二支の回転経筒）」が 4 頭の獅子像の周りに配置され、これを回転さ

せながら右回りに 4 つの願い事を唱えれば、それが成就されるそうです。

3. 中沢町八幡社：明治維新時に常楽寺から遷座。誉田別命(ほんだわけのみこと)、宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)が祀られている。
4. 梅谷家・賀茂真淵夫妻の墓碑：真淵の一子直滋がこの地に夫婦の墓として建てました。
5. 白山神社：祭神はイザナミ・イザナギ・スサノオです。浜松学院を南に下った所に一の鳥居がありそこから 56 段登ると二の鳥居に着きます。開けた場所に本殿が建てられています。本殿の後方には樹齢 200 年のご神木があり、さらに駐車場方面には桜の木の中に竹が伸びている「子持ち桜」が見られます。
6. 少林寺：白山神社から百段坂を下った所に、臨済宗方広寺派少林寺が建っています。

以上のコース終了後、ホテルコンコルド浜松に戻り意見交換をしました。概要は下記の通りです。

イ) 20 期生からの意見・感想

- (1) 城や資料館でお客様の難しい質問の対応で研修不足を感じる。来年新人研修にも参加したい。
- (2) 失敗続き。駅でバス停案内に階段を降りたり、城まで徒歩のルートの説明できなかったり。
- (3) ガイドの都度、お客様の質問を新鮮に感じる。家康十六将の並び順の説明等失敗。
- (4) 多人数のお客様対応において、近くの方へのガイドに集中し、他のお客様方を引き付けられない。
- (5) うれしかったこと。戦火を逃れたプラタナスの説明後、お客様がその実を拾い、届けてくれたこと。
- (6) 自分の好きなこと、得意なことに話題を持って行く。次に行く観光地への同行を誘われ、感謝。
- (7) 歴史上の人名、地名等の読み方、意味を調べると次々に疑問が膨らんでくる。まとめが難しい。
- (8) 城から景色を満喫。地元のお客様に「小さな城と卑下しないで、苦労して造った」と言われた。

ロ) 事務局等からの意見等

- (1) お客様への回答は断定的な言い方でなく、多少ぼかしたり、余韻を残すような言い方が良いと思う。
- (2) ガイドの際、物語り性がお客様を惹き付け、世間話から物語を作る。多様性がお客様を惹き付ける。
- (3) ガイドには健康が大切。溢れるほど知識を詰め込めすぎず、楽しんでガイドを続けて欲しい。

20 期生の皆さんは非常に真面目で、真剣にガイドについて勉強していることが伺えました。152 号線沿いの社寺は景観も美しく、再度歩きたいと感じました。 広報部 古本俊夫(南ブロック)

中ブロックミニ研修「家康公のルーツを訪ねるバス旅」

11月2日、好天に恵まれ、わが中ブロック総勢16名で家康公のルーツである豊田市松平郷・岡崎市に向けて出発しました。計画は5ヶ月前から始まり、清水さんが企画・資料作り・講師を担当、小野さんが手配・会計・添乗員を担当しての楽しい研修の旅となりました。

車中ではしっかり清水さんの講義で研修を受けました。実を言うと、昨年初めてこの地に足を運んで、やはり家康公のルーツを知ることがガイド活動に不可欠であると感じていたところ、この企画が持ち上がり、とても良い機会と思いました。

松平郷に着くと、約600年前にこの小さな郷から近隣7村を治めた初代松平太郎左衛門親氏公の像にお会いしました。二代・泰親公が岩津城を落とし、三代・信光公が安祥へと勢力を広げました。そして家康公の祖父である7代・清康公が岡崎に本拠地を移し、広忠公そして松平宗家では9代目に当たる家康公へと続くのです。松平氏館跡に造られた松平東照宮に参拝し、境内には松平家代々の産湯の井戸がありました。岡崎城内で家康公が生まれた時は、「松平の水を持って」と家来に命じて早馬で運ばせたという話です。それから少し上ると松平家の菩提寺・高月院に到着します。境内には初代親氏、泰親、4代親忠夫人のお墓が並んでいました。現在の山門や本堂は1641年に徳川家光の命で建立されたものと伝えられています。2000年にこの松平氏館跡（松平東照宮を含む）と高月院等は国の史跡に指定されている由緒あるものと感激しました。



松平東照宮前の中ブロックの皆さん



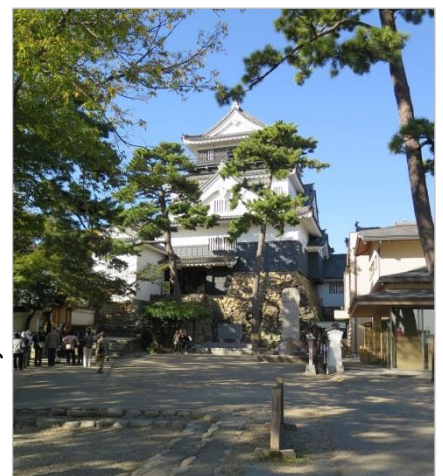
大樹寺本堂

次は岡崎市へ向かいました。松平家・徳川家の菩提寺である大樹寺です。桶狭間の戦いの後、家康公（当時は元康）がこの寺に逃げ込んだのは有名な話です。先祖の墓前で自害しようとした元康に住職の登誉上人が「厭離穢土 欣求浄土」、つまり戦国の乱世を平和な極楽浄土にするのが使命と諭されたのは有名な話です。家康公はこれを旗印・座右の銘としました。この言葉は本堂に入ると両柱に掛けられており目に飛び込んできます。本堂ではテーブルで説明を聴いたあと、「襖絵 将軍御成りの間」（国重要文化財）、「位牌堂」へと進み、江戸幕府の歴代将軍の臨終時の身長と同じ位牌も見学しました。代々の将軍の身長が150cm台であり、5代将軍の綱吉公が124cmと極端

に小さいのには驚かされました。境内には清康公建立の「多宝塔」（国重要文化財）を仰ぎ、家光公が建立した山門から3キロ離れた岡崎城を望むことが出来ました。

昼食は八丁味噌煮込みうどんを食し、八丁味噌工場のお店と和菓子屋さんに立寄って買物もしました。

最後は岡崎城の見学です。1455年西郷頼嗣により築城されており、家康公のころまでの中世城郭と秀吉の家臣・田中吉政が実施した田中堀といわれる4.7kmに亘る総堀のある近世城郭の両方があるという説明を受けました。天守閣は昭和34年に復興された三層五階で城内は広々としており、展示品は整然とし、かつ刀剣類がきちんと研がれ光り輝いているのに感心しました。展望台から大樹寺が見えるかと目を凝らしやっとそれらしきお寺を見つけました。公園内は家康公銅像、本多忠勝銅像、家康公のえな塚（えなとは胎盤等）、家康公の産湯の井戸を見て回りました。話には聞いていましたが、石像しかみ像（徳川18代恒孝氏の寄贈）が公園内に鎮座していました。この石像が浜松城公園内にあればと思ったのは私ばかりではないと思います。



岡崎城

じっくりとメインの三ヶ所を巡りました。帰りのバスでは問題用紙が配られ、満点が3人で賞品がもらいました。和気あいあいの雰囲気を残しながらの充実した一日になりました。

柳本幸子（中ブロック）

西部地区観光ボランティアガイド連絡協議会「平成 30 年度研修会」に参加

12月4日10時から森町文化会館ミキホールにて標題の研修会が開催されました。参加者は全体で57名、当会から24名でした。

講演会研修の冒頭に森町観光ボランティアガイド会長奥宮良治氏より開会の挨拶があり、続いて初代会長の相羽恒雄氏の「小京都森町の歴史」と題した講演がありました。「森町は太田川の河川敷に築かれた町ですから、新鮮な伏流水が町中を張り巡らされた幾筋の水路から生活用水と防火用水に使われる清潔で安全な町として、更に、幾筋もあった秋葉街道の玄関口として南北の交通の人と物資と情報の集積地でもあり、小京都と呼ばれるにふさわしい文化が栄えた町です」との紹介がありました。

次に事務局から森町観光協会のHPの上映がありました。

続いて地域おこし協力隊員の大須賀義明画伯が、三度笠に旅合羽の衣装で森の石松を浪曲風に紹介する寸劇のサプライズがあり、拍手喝采を浴びました。

最後に連絡協議会会長の内山豊吉氏より「ほっこりしたガイドを務めましょう」と講評と締め挨拶がありました。



講演会研修風景

昼食時には、献上柿が振舞われ、会館内の「やさしい市場」の弁当を美味しく頂きました。



蔵の建つ問屋跡

ガイド視察研修は、A班：守山焼陶房めぐり（3陶房）、B班：森町の街並みと小京都の街並み散策の2班に分かれ、それぞれ地域おこし協力隊員の案内で実施されました。B班は、森アリーナを起点に「望月プラザ（もりの湯）」「治郎柿の原木」「森町之賦の碑」「鈴木藤三郎の生家」「蔵屋敷」等を大須賀氏も加わったガイドで回りました。

町の至る所に今は暗渠になっている水路跡があり、森町の経済発展を象徴する料亭「柏屋」と蔵が4軒建ち並ぶ問屋の跡は、森町の隆盛を物語っています。

研修会を担当した森町観光ボランティアガイドの方々のほっこりしたおもてなしに感謝します。西ブロック 杉山淳一

11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

《浜 松 城》

* 上記以外に36名以下の67団体 1,156名

複数回来場のあった団体

* クラブツーリズム第2国内旅行C	6回	261名
* (株)阪急交通社	6回	238名
* 台湾人団体	4回	97名
3日 土 中日新聞印刷(株)社員旅行		40名
8日 木 湖東中学校		95名
16日 金 エムオーツーリスト		65名
榎本ビーエー株式会社		60名
23日 金 大和ハウス工業(株)東日本		100名
27日 火 蒲小学校		205名

《犀ヶ崖資料館》

8日 木 湖東中学校	95名
* 上記以外に25名以下の3団体	43名

《浜松まつり会館》

3日 土 一宮市市議会議員後援会	241名
15日 木 相生小学校	108名
25日 日 一宮市市議会議員後援会	181名
* 上記以外に39名以下の5団体	148名
* 日曜対応(4、11、18、25日)	365名

は ま ま つ 案 内 人 会 報 201号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

は ま ま つ 案 内 人

検索

